

第1回

答え

- 1 ① 19998 ② 1332  
 2 ① 8 ② 6 ③ 4 ④ 2  
 ⑤ 8 ⑥ 6 ⑦ 4 ⑧ 2  
 (⑤~⑧は順不同)  
 ⑨ 40  
 ⑩ 8 ⑪ 10 ⑫ 80  
 ⑬ 80 ⑭ 40

考え方

1 1 筆算を書くと、各位の計算がどれも、 $3+4+5+6=18$ になっています。

$$\begin{array}{r} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \\ \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \\ \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \\ \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \\ \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \\ + \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \\ \hline 19998 \end{array} \quad \leftarrow \text{繰り上がり}$$

分配法則を利用して考えると、  
 $3456 + 4563 + 5634 + 6345$   
 $= 3000 + 4000 + 5000 + 6000$   
 $+ 400 + 500 + 600 + 300$   
 $+ 50 + 60 + 30 + 40$   
 $+ 6 + 3 + 4 + 5$   
 $= (3+4+5+6) \times (1000+100+10+1)$   
 $= 18 \times 1111 = 19998$   
 となります。

2 2 筆算を書くと、各位の計算がどれも、 $(1+2+3) \times 2 = 12$ になります。

$$\begin{array}{r} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \\ \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \\ \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \\ \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \\ \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \\ + \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \phantom{+} \\ \hline 1332 \end{array} \quad \leftarrow \text{繰り上がり}$$

第2回

答え

- 1 ① 7月…29000(人)  
 8月…35000(人)  
 ② 64000人(約6万4千人)  
 ③ 6000人(約6千人)  
 2 ① 一万(10000) ② 80000  
 3 いちばん大きい場合…20098  
 いちばん小さい場合…19900

考え方

1 2, 3 千の位までの概数にしてから和や差を求める概算の問題です。

- 2 ① ①の答えを使って、  
 $29000 + 35000 = 64000$ (人)  
 と求めます。  
 ③ ①の答えを使って、  
 $35000 - 29000 = 6000$ (人)  
 と求めます。

2 ① 29944が30000になることから、箱の中では百の位か千の位を四捨五入しています。

また、96999が100000になることから、箱の中では千の位か一万の位を四捨五入しています。

この2つの条件から、箱の中では千の位を四捨五入して、一万の位までの概数にしていることがわかります。

3 百の位までの概数にすると14600になる整数は、14550以上14649以下です。

百の位までの概数にすると5400になる整数は、5350以上5449以下です。

つまり、いちばん大きい場合の和は、  
 $14649 + 5449 = 20098$

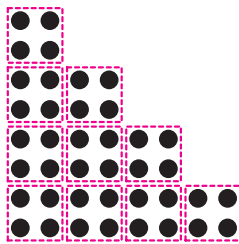
いちばん小さい場合の和は、  
 $14550 + 5350 = 19900$

となります。

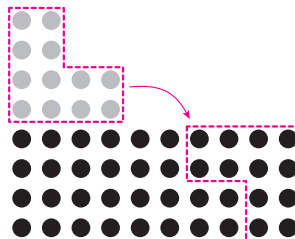
この問題のように、図から並んでいるおはじきの個数を求める問題は、いろいろな考え方ができます。

自分ならどのように求めるかを式や言葉で説明したり、もしくは与えられた式からどのように考えて書かれた式かを読み取ったりすると、思考力や記述力を磨くよい訓練となります。

今回の問題では、下記のような考え方で個数を求めることができます。



おはじき4個のかたまりが、 $1+2+3+4$ (個)できるので、  
 $4 \times (1+2+3+4) = 40$ (個)



一部を切り離して組み合わせると長方形になるので、

$$(8 \div 2) \times (8 + 2) = 40 \text{ (個)}$$

Z会 × ちびむすドリル

考える楽しさを体験しよう!



くわしくはこちら!

Z会の本



かっこいい小学生になろう

第3回

答え

- 1 ①  $132\text{cm}^2$  ②  $92\text{m}^2$  ③  $540\text{m}^2$   
 2 ①  $35a$  ②  $64\text{ha}$   
 3  $375\text{cm}^2$

考え方

1 ① 下の図1のように、大きい長方形から正方形を除くと、 $3+6+5=14$ より、 $14 \times 12 - 6 \times 6 = 132(\text{cm}^2)$

図2のように、横に3つの部分に区切って考えることもできます。

$$3 \times 12 + 6 \times (12 - 6) + 5 \times 12 = 132(\text{cm}^2)$$

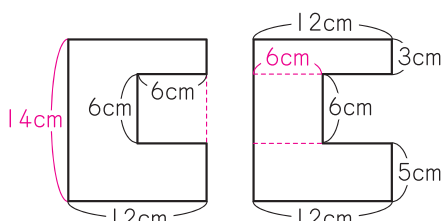


図1

図2

2 長方形から中の正方形を除くと考えると、 $12 \times 9 - 4 \times 4 = 92(\text{m}^2)$

3 下の図3のように、大きい長方形から小さい長方形と正方形を除くと考えると、 $12 + 22 = 34$ 、 $10 + 14 = 24$ 、 $24 - 16 = 8$ より、 $34 \times 24 - 22 \times 8 - 10 \times 10 = 540(\text{m}^2)$

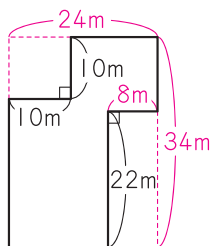
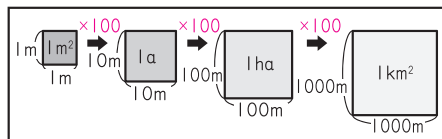
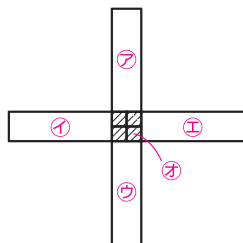


図3

2  $1a = 100\text{m}^2$ 、 $1\text{ha} = 100a (= 10000\text{m}^2)$  の関係は下の図のように覚えると覚えやすくなります。



3 下の図の㊷と㊸を合わせた面積は、 $(20 \times 2 - 5) \times 5 = 175(\text{cm}^2)$   
 ㊶と㊹を合わせた面積も  $175\text{cm}^2$ 、  
 ㊸の面積は、 $5 \times 5 = 25(\text{cm}^2)$  です。  
 だから、図形の面積は、  
 $175 \times 2 + 25 = 375(\text{cm}^2)$



次のように考えることもできます。

テープ4枚分の面積は、

$$5 \times 20 \times 4 = 400(\text{cm}^2)$$

で、重なった部分はどこも2枚ずつ重なっています。つまり、 $400\text{cm}^2$  から、重なり1つ分の面積をひけば、図形の面積が求められます。

だから、求める面積は、

$$400 - 5 \times 5 = 375(\text{cm}^2)$$

Z会 × ちびむすドリル

考える楽しさを体験しよう!



くわしくはこちら!

Z会の本



かっこいい小学生になろう